



CENTER FOR GENDER RESEARCH AND SOCIAL SCIENCES
GRADUATE SCHOOL OF SOCIAL SCIENCES, HITOTSUBASHI UNIVERSITY

一橋大学大学院社会学研究科 ジェンダー社会科学研究センター

第27回 CGraSS 公開レクチャー・シリーズ 〈戦時、日中映画のモダニズムとジェンダー〉

2014年6月13日(金)16:30~18:30

於 一橋大学第三研究館研究会議室(東キャンパス)

日中戦争から太平洋戦争にかけての時代にあつてモダン文化の中心ともなった日本/中国の映画とその社会についての注目の研究書、宜野座菜央見『モダン・ライフと戦争——スクリーンのなかの女性たち——』(吉川弘文館、2013)・晏妮『戦時日中映画交渉史』(岩波書店、2010)の著者たち、さらに日本近代文学研究で知られる討論者を迎えます!

モダン・ライフ映画が提起するもの： 見えない中国・日本社会の二重構造

講師：宜野座 菜央見

(明治大学・大阪芸術大学兼任講師：近代日本史)



大衆文化が活気づいた1930年代。日中戦争下、日本映画は戦争映画で戦場と銃後をつなぎながらモダン・ライフを描く映画を提供し続けた。この現象が示唆するのは何か、『モダン・ライフと戦争』が論じなかった点を報告する。



越境する映画、引き裂かれた表象： 戦時日中映画交渉に見るジェンダー

講師：晏 妮(アンニ)

(本学社会学研究科客員教授：比較映画史、映像学)

欧米一辺倒だった日中両国映画界は、日中戦争期に非対称の関係下で接触を開始、映画製作や輸出入を行った。戦争相手国に進出した作品における表象とスター女優の身体に絞って、ナショナリズム、コロニアリズムとジェンダーの視点をいれて多角的に検証する。

ディスカッサント： 島村 輝 (フェリス女学院大学文学部教授)

司会：坂元 ひろ子(本学社会学研究科特任教授：中国近現代思想文化史)